

新潟医療センターニュース

第13号

発行 JA新潟厚生連 新潟医療センター

発行責任者 田中憲一

医療講話



内分泌・糖尿病内科 五十嵐智雄

内分泌・糖尿病内科外来スタッフ (1列目右五十嵐先生)

ホルモンの分泌器官の病気

内分泌・糖尿病内科とは？

「内分泌」とは、ホルモン（内分泌腺という特殊な構造をもつ器官・組織より血液などに移行して少量で他の器官などに影響を及ぼすことのできる物質）の分泌のことです。「内分泌内科」は、この内分泌腺の病気（内分泌疾患）を専門とする科です。

内分泌内科への受診

通常、何か症状や病気があり、他科・他の医療機関で検査した上で、内分泌疾患が疑われた時に当科に紹介となります。

まず。患者さんの訴える症状は、内分泌疾患以外の病気が原因であることがほとんどで、症状だけで自己判断し内分泌疾患と決めつけてしまうのは危険です。まずはお近くの医療機関・かかりつけ医を受診して下さい。



研修医指導中の阿部孝洋先生(左)

甲状腺(こうじょうせん)

前頸部にあります。甲状腺ホルモンは、体内での新陳代謝を早めるホルモンです。過剰(甲状腺機能亢進症)であると脈が常に早く、不整脈も出やすくなり、手が常にふるえ、体重が減ってきます。逆に不足(甲状腺機能低下症)すると、むくんで、活動性が低下してきます。過剰でも不足でも極端になると心不全になったり命にかかわることがあります。甲状腺腫瘍は、がんや判定困難なものは他院へご紹介しています。

副腎(ふくじん)

左右の腎臓の近くに一つづつあり、生命維持に不可欠な種々のホルモンを分泌します(消炎、電解質バランス保持、昇圧など)。これらのホルモンは、過剰でも不足でもそれぞれ身体に悪影響や危険を及ぼすため、治療が必要です。CTで偶然副腎の腫瘍が見つかり受診する場合があります。この副腎腫瘍が勝手にホルモンを過剰に分泌していないか検査します。また、副腎からのホルモンが過剰なため高血圧や糖尿病が発症している場合もあり、これらの患者さんでホルモンを測定し異常が発見されることもあります。

新しい装置 入りました

手術室・さらに充実

外科用イメージ入れ替え導入

当院の手術室は、朝から大忙しです。大小四つの部屋をフル稼働し様々な手術が行われます。消化管や膝の人工関節手術を始め、尿管結石の破碎術等、挙げればきりがありません。手術機器もその目的に応じて、これまた大小様々です。今年一番に手術室に入れ替え導入されたのが「外科用イメージ」です。この装置を簡単に説明すれば、X線透視が出来る移動型機器です。整形外科の手術では、人工物を骨に埋めたり固定したりするので、透視画像を見ながら

糖尿病

膵臓から出るインスリンというホルモンの作用不足によって起こるため、内分泌疾患の一つといえます。高血糖、こん睡や全身の合併症(失明、人工透析、心筋こうそく、脳こうそく、足のえそなど)を来す病気です。無症状のうちには合併症は進行しますので、無症状でも放置厳禁です。健康診断などで糖尿病を疑われたら、必ず医療機関を受診して検査・治療を受けましょう。

その他

下垂体(かすいたい)、副甲状腺の病気も当科が専門です。なお、不妊や



手術する場合がほとんどです。泌尿器科の尿管結石の破碎も正しく結石の位置を知るのに透視が役立ちます。今回導入された装置自体も高性能にて、鮮明な画像、低被ばくにて手術が行われます。より安心して手術を受けて頂けるように、さらなる充実を目指してあります。

放射線科 大橋 利弘

更年期障害は産婦人科など、摂食障害(いわゆる拒食症・過食症)は精神科に受診して下さい。

当科は、県内では数少ない、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設の両方の資格を有する科です。専門の医師・スタッフにより、他科や新潟大学などと緊密に連携し、診断・治療をしっかりと行えるようになっています。また、国の政策に従い、診療所からご紹介頂き、落ち着いたら、予約や待ち時間の心配が少ない診療所に再度通院して頂く、という「地域連携」を行っています。ご理解をお願い致します。

内分泌・糖尿病内科 五十嵐 智雄

(裏面もご覧ください)

こんにちは赤ちゃん

元気いっぱい赤ちゃんです！



昨年の六月、我が家に長男が誕生しました。妻の妊娠中から私の勤める当院へ通院し、妊婦健診の時は先生からわざわざ連絡をいただき、夫婦そろってエコー写真で赤ちゃんの成長を見せていただきました。

出産ももちろん当院にお世話になり、初めての出産で不安な妻を、先生をはじめ病棟のスタッフの方々が親身になって相談にのっていただき、本当に心強かったです。

無事に出産を終え、息子と一

緒に自宅へ帰る際は「こんな小さな赤ちゃんを自分たちで育てられるのか」と不安もありましたが、家族の協力もありすくすくと成長し、半年以上たった今では声を出して笑い、寝返りも上手にできるようになりました。

まだまだ夜中に大きな泣き声で起こされることもありましたが、息子が無事に育ってくれることが夫婦の願いです。

最近新たに出来た私の夢は、息子の運転する車で一緒にドライブすることです。まだまだ先の事ですがこの夢が叶う日を楽しみにしています。

地域医療連携室

夏目 一臣

ひろげよう 全国厚生連の輪！

全国統一献立編

当院新潟医療センターは、新潟県厚生連病院の一つですが、全国各県にも厚生連病院があります。その中で私たち栄養士の集まりである全国厚生連栄養士協議会での今年度の取り組みを紹介いたします。

全国厚生連統一献立の日を設け、第一回目として香川県の郷土料理、讃岐のしっぽうどんを過日提供いたしました。讃岐と言えはすべしうどんを連想しますが、古くから香川（讃岐）では、「ハレ」の行事には欠かせ

ないものでした。今回患者さんに召し上がっていただいた『しっぽうどん』は讃岐の冬の代表的な郷土料理です。

作り方は簡単で、鶏肉と大根、にんじん、里芋、ウス揚げ、万能ネギなど季節の野菜を一度に煮込んで味をつけ、茹でうどんの上からかけて食べます。

入院患者さんへの聞き取り調査でも、おいしかったとの声が聞かれ、秋、冬の定番メニューに取り入れたいと思っております。

今月は福島の『小汁・こずゆ』を予定しております。安心・安全・おいしさを心がけながら、患者さんに喜んでいただけるようこれからも努めてまいります。

管理栄養士 小坂 浩子



讃岐郷土料理・『しっぽうどん』

病院探索

情報の共有こそが大切

医療安全管理編



医療安全の専従として配属になり十カ月を数えます。もともとは病棟の看護師長業務を行っていましたが、今では医療安全管理推進の専門員として、病院全体の管理を担当しています。

する対策や整備、教育はされているかなどの確認をしています。次いで、間違いが起こった時の対応やその後の対策づくりを検討し、全体で情報共有を行っています。

人の命に係わる医療現場において、職員一人ひとりが危機意識を持ち、最大限の注意を払いながら患者さんの診療に当たらなければなりません。

私の信念として、実際に現場に足を運び顔が見える関わりを行っていきたいと思っています。患者さん側からの声、現場で業務する側の声には、未来へ繋がるものがあると考えます。

この様な安心・安全な医療が遂行出来る体制・環境を整えるためのあらゆる活動を管理するのが私の仕事です。

「どうぞ、「あれ？」と思うことがありましたら、病棟の相談窓口を通して、皆さま方の声を遠慮なくお知らせ下さい。

医療安全管理者 磯部 紀子



医療安全管理者 磯部 紀子

編集後記

当直の朝、当院から撮影した初日の出です。日の出を見ながら、患者さんと楽しいひとときを一緒に過ごさせていただきまし。今年とはどんな年になるのでしょうか。皆様が健康でよい年になりますように……。



2016年元旦・初日の出



(記事・玉木)